ヒートアイランド対策の検討事項について

資料６

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 検討項目 | 現　状 | 課題及び論点 | 事務局の考え方 |
| 推進計画の目標の考え方について | ・現計画では平成12年（2000年）から2025年までに熱帯夜数を3割減らす。・計画の基準年(2000年)から2011年まで、熱帯夜数は下記の3都市の平均で0.8割減少している。地球温暖化の影響を考慮した場合は、1.4割減少している。※熱帯夜数(地球温暖化の影響を考慮しない場合)

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 平成12年 | 平成23年 | 増減 |
| 大阪 | 46日 | 43日 | ▲3日 |
| 豊中 | 36日 | 33日 | ▲3日 |
| 枚方 | 29日 | 27日 | ▲2日 |
| 3地点平均 | 37日 | 34日 | ▲3日 |

※熱帯夜数(地球温暖化の影響を考慮した場合)

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 平成12年 | 平成23年 | 増減 |
| 大阪 | 46日 | 41日 | ▲5日 |
| 豊中 | 36日 | 32日 | ▲4日 |
| 枚方 | 29日 | 24日 | ▲5日 |
| 3地点平均 | 37日 | 32日 | ▲5日 |

 | ・熱帯夜日数では気候変動の影響等　　　を受けるため、ヒートアイランド対策の進捗による効果が示せない。熱帯夜日数以外の具体的な目標設定が必要ではないか。 | ・シミュレーションの開発により、熱帯夜日数を3割削減するために必要な気温低下量から、実施すべきヒートアイランド対策量を示すことができようになった。今回、他部局の計画と整合を図りながら、実施すべきヒートアイランド対策量（対策指標）を設定する。 |
| ・クールスポットを創出する。アンケート調査等を通じて意識調査を実施している。※平成24年夏、大阪クールスポット100選　・府内のクールスポット119箇所選定平成25年度夏　大阪府インターネット調査・クールスポットが身近なところにないが利用したいと考えている人は7割から8割程度。 | ・目標数値が記載されていない。具体的にどれくらいのクールスポットを創出するのか。目標数値を設定する必要はないか。 | ・昼間の暑熱環境を緩和するクールスポットは潜在的に多数あると考えられるが、認知や活用されていないことが課題であり、今後は府民の意識を高めたり、クールスポットへ誘導するためのマップ作成等が必要と考えている。 |
| 検討項目 | 現　状 | 課題及び論点 | 事務局の考え方 |
| 主な施策の推進（建築物の高温化抑制） | ・建築物の高温化抑制の取組みが進んでいない。※H24、25年度CASBEE重点評価3以上の割合・みどり・ヒートアイランド対策60％程度・CO2対策、省エネ対策は100%近い | ・建築物および敷地におけるヒートアイランド対策を促進させる制度が不十分ではないか。 | ・熱負荷計算モデルを活用し、建築物および敷地におけるヒートアイランド対策の効果を検証し、本モデルの普及啓発に努める。・効果検証の知見を踏まえ、建築物および敷地におけるヒートアイランド対策を促進する制度等の導入を目指す。 |
| 主な施策の推進（適応策の推進） | ・具体的な施策について明記されていない。※平成25年度より高槻市（商店街ドライミスト）と枚方市（歴史街道での打ち水）で環境省が適応策モデル事業を実施中。 | ・どのような適応策を推進するのか。 | ・環境省の適応策モデル事業等の結果を踏まえ、効果的な適応策を普及させる。・面的対策に向け、ヒートアイランドに効果のある街路等における緑化手法について検討を行なう。 |
| 推進体制、進行管理の方法 | ・庁内の推進体制、進行管理は、庁内検討部会構成メンバーにより実施。※平成25年度は、大阪府ヒートアイランド対策推進会議検討部会を2回開催。　 | ・進行管理は、各事業部局の実施状況を報告しているだけで、達成状況がわからない。各事業部局の対策指標の達成状況の進捗管理が必要ではないか。・庁内だけでなく、府内市町村との　　連携が必要ではないか。 | ・対策指標の達成状況が把握できるように、対策指標を設定する。・府内のヒートアイランド対策が必要な都市と連携する体制を構築する。 |